

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



揃ってお健やかに新春を迎えられた大教会長様ご夫妻
(立教180年元日 大教会客殿中庭にて)

立教180年
1月号

立教百八十年

明けましておめでとーございませう

昨年は教祖百三十年祭を(突然の雪で帰れず、後日になった人もいますが)大勢の人と共に心晴れやかに参拝させて頂き、三年千日と仕切つての成人の歩みをお互いに称え合せて頂きました。続いて年祭の年に相応しく、一年間お助けお願いカード等で常にたすけ心を持ち、初めての人をおぢばへと連れ帰るべく十一月二十三日の笠岡おぢば帰り目指してにいがけお助けにと励ませて頂きました。お陰で初めての人も含めて大勢でおぢば帰りすることが出来ました。誠に苦勞様でした。

今年には次の塚教祖百四十年祭に向かって歩み出しの年であります。本部では人材育成を目標に、後継者講習会を始め各種講習会を開催して下さいます。自らが参加させて頂くのはもちろん、一人でも多くの人に参加の声をかけてまいりましょう。そして本部に育てて頂くばかりでなく、育ての基は自分自身である事を自覚し、自らが信

仰の基本に立ち返って、かじもかきものをしっかり味わい、御恩報じに徹して、一段一段と確実に徳を積み重ねて行きたいと思ひます。どうぞ今年一年もよろしくお願い致します。

笠岡大教会長

上原理一

立教180年 各部会の抱負 及び 年間行事予定

布教部

昨年一月二十六日、教祖百三十年祭を勤め終えた私たちは、更なる成人の姿を教祖にご覧頂くとうと、一年を教祖百三十年祭の年として、教祖にお喜び頂ける成人を目指して歩ませて頂きました。その中、「初帰参者をおぢばへ」を合言葉として、十一月二十三日には笠岡おぢばがえりを実施し、多くの初

帰参者をおぢばへお連れする事が出来ました。年祭の年として歩みを進めるその間、それぞれの上にお見せ頂く節の中にも、大難を小難に小難を無難にとお連れ通り下さる親心を身に感じつつ通らせて頂いた事と思ひます。

そして迎えた本年。次なる塚に向かつての歩み出しの一年という大切な旬を迎えるお互いでありませう。真柱様は昨年の秋季大祭において、「教祖の年祭を勤め終えて、年祭という節目を目指しての活動の上に立つて、改めて足元を見つめ直し、本来の目的である陽気ぐらしの世界実現に向けて、一層の道の伸展と、銘々の成人を図らなければならぬ現在であります。」とお示し下さいました。

足元とは、一人ひとりが改めてかりものの体に頂戴する親神様の自由の御守護によつて生きていく喜びを見つめ直し、その感謝を元とした御恩報じの実践だと思ひます。さらに道の伸展として、教会子弟、ようぼく信者子弟という、将来の道を担う人材の育成は欠かせない事柄であり、その人材を育成する立場である我々が果たすべく実践する事こそ大切な事だとお示し頂いたように思ひます。

そうした事を踏まえ、現在おぢばで開催されている「教会長おやさと研修会」や「教会長大望塾」へ、対象の教会長に積極的に受講して頂けるよう働きかけていきたいと思ひます。

歩み出しの旬の動きに遅れる事のないよう、本年も布教部一同が笠岡の旗振り役として、活動の推進力となるよう努めさせて頂きたいと思ひます。本年もよろしくお願い致します。

◎年間行事

1. 別席伏せ込みひのきしん回参

期日 11月25日(土)〜26日(日)

2. 立教180年全教一斉ひのきしんデー

期日 4月29日(月・祝)

※参加への呼びかけを

(特に、教会と離れた地域に住まうようぼくへも、所属教会から積極的な声掛けをお願いします)

3. 布教推進講習会

期日 9月21日 大教会祭典後

4. 笠岡にいがけ推進日

期日 9月23日

5. 立教180年全教一斉にいがけデー

期日 9月28日(日)

・ 9月29日(月)・30日(火) 全教会長路傍講演の日

全よふぼく実動日

※9月は布教強調の月です。部内教会を拠点とさせて頂いて、布教部員の布教活動を計画しております。

海外部

海外部の動きは海外移住者・海外の現地人ようぼく・信者へ、教内の動き・笠岡の動きを伝える文書伝道を行って行く事と、帰参される方々のお世話取りとお手伝いを理の親の方々とさせて頂く事。来日される外国の人達への布教活動・日本の海外伝道の意識を持った人材を育てていくことにあると思えます。

例年の英語講習会、11月の月次祭祭典講話に代えての海外伝道講習会、また広島平和公園での外国語パンフレット配布などの行事も、未来に繋がる海外伝道の意識を高めるものであります。昨年から始まった文化活動・英語勉強会も継続し、その意識を高めていく人材育成が出来ればと思えます。そして、今年もタンザニアの国への9年目のおたすけ活動も続けていきます。将来現地の人達が中心となって、つと

め・さづけ・教えを通して喜びを共有できる場を持つ事を目標に展望を持つて動かして頂きます。今年も、海外布教を基盤として信仰を深めるアプローチを続けていきたいと思えます。

年間行事

- 1. 英文パンフレットを配布(3月と11月に広島島の観光地へ行きます)
 - ：海外伝道に携わらせて頂く理作りをさせて頂こうと思うものです。
- 2. アフリカ孤児支援バザー 4月9日(日)
- 3. タンザニアおたすけ訪問(今年は5月末から二週間の予定です)
- 4. 英語講習会(8月7、8日に開催)
 - ：昭和43年に始まったこの講習会は今年で72回目を数えます。毎年海外のネイティブスピーカーをゲストとしてお呼びし、参加者と直接話したり、海外の思いを聞かせて貰います。

5. 海外伝道講習会

(11月21日の月次祭に合わせて)
：外部講師をお呼びし、海外伝道に携わる話を聞かせて頂き、日々の信仰生活のヒントにして頂

きたいと思えます。

6. 英語勉強会(月一回、毎月22日に開催しています)
：海外布教の一助になればと思えます

育成部

○人間の体は、親神さまからのかりものである。両親の工夫でつくられたものでもなければ、自分の力で生きているのではない。神さまのご守護によって生かされているのである。
○自分のものは心だけであり、その心を親神さまの思召に添って使わせていただくところに、自由のご守護がいただける。

○お借りした体は、年限がくればお返ししなくてはならない。これを出直しという。しかし、出直しても魂は生き通しで、また親神さまより新しい体をお借りして生まれてくる。
○自分が病んだら良くわかる。心を入れ替えて、真つ直ぐに進むしかない。そのためにも「ようぼく勉強会」は有意義だ。……何も彼も勉強になる。
おふでさきには

にんけんハみなく神のかしものや
神のちうよふこれをしらんか (三丁126)
めへくのみうちよりのかりものを
しらずにいてハなにもわからん (三丁137)
今年も勇んでつとめさせて頂いたります。

育成部長 吉岡 壽

ようぼく勉強会(平成29年)

- 月 テーマ 講師・司会者(敬称略)
- 2月 地域のにいがけ 杉原善朗・森本忠善
- 4月 仕事に生かす信仰 山田睦浩・田中隆之
- 6月 をびや許しの不思議 田中つかさ・門脇加津
- 7月 出直し 渡邊眞次・吉岡 壽
- 8月 布教の家を出て 北川茂久・中島誠治
- 10月 心の痛みのおたすけ 香取満彦・門脇元教
- 12月 教会長、ようぼく、信者子弟の育成について 三代幸・武内正美

今年も「ようぼく勉強会」にふるつて参加しましょう。
時間は、祭典後・午後1時15分から2時まで、45分の勉強会です。是非、祭典の後の勉強会に参加しましょう。
大教会育成部

管理部

大教会、詰所共、大勢の信者さん方が帰って来られるところです。気持ちよく過ごしていただけるよう日頃から心を配らせて頂きたいと思ひます。敷地も広く建物の規模も大きいので、皆様方のお力添えが必要です。今年も管理部の上にご協力をお願いいたします。

- 夏季 草刈り
- 10月 剪定 障子張り
- 12月22日 年末大掃除

婦人会

百万会員を目指して

新年おめでとうございます。
教祖130年祭も、皆様方と共に、三年千日の活動と共に無事つとめさせて頂くことができました。本当に勿体ないことと思ひます。この年祭活動の動きを止めることなく日常に活かして次の塚に向かつての歩みをすすめさせて頂きたいと思ひます。何よりも信仰を次代に繋ぎ、御恩報じの心が日常の心として動いてゆける支部活動をすすめて

ゆきたいと存じます。

一昨年末に打ち出して頂いた「百万会員」への歩みを、会員さん方の丹精・成人にむけてすすめてゆきたいと存じます。まずは育てる側の成人につとめ、育ち育てる丹精に努めさせて頂きましよう。

女子青年大会におかけ頂いた思い、本部巡回におこめ下さった思いをしっかりと受け止めて、この一年、精一杯、明るいい心で楽しんで通らせて頂きましよう。

《成人目標》

ひながたをたどり
陽気ぐらしの台となりましよう

《活動方針》

- 一、ご恩報じを念じ
実のようぼくに育つ
- 一、教えを学び身につける
- 一、身近な人を実のようぼくに育てる
- 一、百万会員を目指して
にをいがけ・おたすけに励む

笠岡支部婦人会

青年会

青年会活動の上に多大なるお力添えを賜り、誠にありがとうございます。本年もより一層のお力添えを賜りますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、天理教青年会は、来年・立教181年に創立百周年を迎えます。昨年「青年会百周年決起 天理教青年会笠岡分会総会」を開催し、百周年に向けての第一歩を踏み出させていただきました。この度の百周年活動では、青年会本部の掲げるスローガン「心を動かせ、世界を拓け」の下、真正面から布教と求道に取り組み、青年会長である中山大亮様がおっしゃったように、「人生を変える百周年活動」にできるように、精一杯つとめさせて頂きたいと思ひます。また、本年6月のおやさとふしん青年会ひのきしん隊は、20名での入隊を心定めていただいております。おちばでの伏せ込みを通して、成人させていただくことができる素晴らしい機会ですので、参加のお声掛け、お力添えを、重ねてお願いいたします。

◆本年の分会活動

- ・ひのきしん団参……………5月28日
- ・おやさとふしん青年会ひのきしん隊……………6月1日～24日
- ・あらしとよりよう入門塾……………8月16日
- ・布教推進週間……………8月27日～9月3日
- ・父親講座……………10月1日
- ・第93回天理教青年回総会……………10月27日
- ・有志ひのきしん隊……………毎月(随時)
- ・あらしとよりよう一斉にをいがけデー……………毎月第二日曜日

少年会

天理教少年会は教祖80年祭の年・昭和41年に発足し、昨年、創立50周年を迎えました。

少年会の目的は、子供たちに信仰の喜びを伝え教え、それをただ知らずだけでなく、その教えが身に付くようにしつけ育てて、将来立派なようぼくに育つための基礎をつくることにあります。

昨年、教祖年祭のおことばで、真柱様は「これからは、道の将来を担う人材を育て、教祖にお使いいただける道具衆として立ち働くようぼくを育てることが急務である」とお話し下さいま

した。

人を育てることは、手掛けてすぐ成ることではなく、じっくり腰を据えて取り掛からなければならぬ仕事であります。

この仕事と少年会活動は切っても切り離すことはできないのであります。

今年もますます充実した少年会となるよう皆様方の一手一つのご協力をお願い致します。

— 立教180年 笠岡団行事予定 —

・おつとめまなび総会 4月1日

・笠岡むつみ鼓笛隊合宿

3月30日～4月1日

・縦の伝道講習会 5月21日

・てっちゃんとおそぼう

(わかぎのつどい) 5月28日

・サマーキャンプ 8月22日・23日

・てっちゃんシアター(親子参拝推進)

1月・5月・7月・8月・10月の21日

学生担当委員会

学生会年間行事

☆「立教180年 春の学生おちばがえり」

スローガン

「次代を担うようぼくへ」

式典 立教180年3月28日 10:00～

本部中庭

直属アワー

11:30～15:30 笠岡詰所

前夜祭 27日 夕づとめ終了後

一人でも多くの学生にお声掛け下さい。

☆「おちば管内学生の集い」

4月～5月開催予定。開催日決定後、連絡させて頂きます。

・おちば管内の学生同士の親睦と新生歓迎会

☆「学生層育成者講習会」

3月21日(火)

☆学生生徒修養会

大学の部

3月3日～9日

高校卒業生コース

3月10日～12日

高校の部

8月9日～15日

雅鶯会

◆雅楽勉強会

・とき

3月5日(日)午前9時

受付、9時半開講式・講習

習、午後3時半閉講

・ところ 大教会

・対象 初心者・初級者(少年会員、一般)

・内容 初心者には、雅楽の基礎から勉強を、また初級者は平調の越殿楽が合奏できるように勉強します。

・講師 大教会雅楽奉仕者

・参加費 300円

・申し込み 2月28日までに大教会に申し込み

※楽器は各自持参ですが都合がつかない人はご相談に応じます。

かさおか「ピーチの会」

◆縁むすびツアー(日帰りバス旅行)実施

人のご縁も、旅の繋がり

○4月23日(日)

○コース 出雲大社、島根ワイナリー、八重垣神社など

○ご案内チラシは二月に配布します。

(左)期待

*また、ピーチの会では紹介カードによるお見合いをプランしています。

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介 ③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事等々

字 数

1000字前後(800字～1200字) 題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は一句からでも結構です。

寄 稿 先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：tenkasa@yahoo.co.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。





「先人に学ぶ」と題して話される。

ようぼく勉強会開催
テーマは「先人に学ぶ」

12月月次祭後

育成部

育成部(吉岡壽部長)では12月21日、大教会12月月次祭後、会議室で「ようぼく勉強会」を開催。今回のテーマは「先人に学ぶ」。

講師の武内正美高屋分教会会長は、里の祖父、祖母のエピソード、思い出、仕込まれたことを中心に話された。

祖母は49才の時、食が進まなくなり検査をすると胃の身上となり、体重が

30キロを切るようになった。敷島大教会の親奥様より「心の出直してきたなら身上の出直したすけるで」との御教えの色紙をいただき、「病院へ行くときは神様から借りたものを返してからいくのやで」ということから祖母、祖父は自分のものを全て納消して胃の全摘、そして脾臓も取る手術をした。医者から手術しても余命3ヶ月と言われたところを神一条の理を立て、親を立て、主人を立て、信者にはあくまで心を尽くし、自ら厳しく生きぬき82才で尊き身上をお返しした。

祖父は仕切り根性、仕切り力が強く、おぢばの声、親の声を丸ごと受けて働きぬいた。また親孝行が第一と皆に仕込まれ、親に心配をかけてはいけないと諭していた。

そして父母が単独布教の荒道を通った話しを切々とされた。

結びに「この道は親孝行、親に孝心、理の親、また亡き親に対しても親孝心に通らせて頂くと、神様が良いようにご守護して下さい。信仰は代々させていただくから有り難い。それぞれの信仰をきちんと次の代につなげて後に残せるように通らせて頂きたい」と話された。

年末大掃除

管理部



長梯子での欄間掃除

管理部(武内清明部長)では12月22日、恒例の大教会年末大掃除を午前9時より大教会長様をはじめ役員、ようぼく、信者ら約80人が参加して行った。

大教会長様の指示のもと、親神様のお社の屋根は後継者の上原明勇先生が行い、上段御簾、欄間、鴨居のはたき掛け、拭き掃除、また参拝場などは役員先生方を中心にビデ、長梯子、脚立などを使って行った。

婦人会員は雑巾の段取りを始め渡り廊下の窓ふき、信者室・講堂の清掃、トイレ掃除や昼食の準備にと、女性な



安全第一にビデの調整

らではの行き届いたひのきしんをした。

参加者の真実のひのきしんにより例年にも増して細やかな作業の中に、立教180年を迎えるに相応しい準備を整える事ができた。大教会長様も、午前9時からの開始の三殿礼拝から12時30分の終了の三殿礼拝まで、先頭に立ちひのきしんをされ、一同共に勇んで大掃除をさせて頂く事ができました。

参加して頂いた皆様には誠にありがとうございます。今後とも大教会の管理の上にご協力頂きます様よろしく願っています。

(管理部副部長 虫明立生)

恒例の餅つきに笑顔溢れる

12・27 詰所

12月26日、本部月次祭終了後、恒例の詰所餅つきひのきしんは13時からの準備から始まった。夜は前夜祭。島根分教会からの蟹と大教会からの牡蠣の差し入れで鋭気を養った。

27日朝7時半より餅つきが始まり、小さい子から大人まで約40人が参加。それぞれが役割を勇んでこなして笑いの絶えない餅つきとなった。

10時半に終る。もう食べられないと思っていた故森本重吉氏のふるまわれた名物うどんは、今年は森本氏の奥さ



息の合った餅つき



つきたてのお供え餅

んと息子さんが調理下さりおいしく頂くことが出来た。

立教百七十九年 十二月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	おつとめ	てをどり	地方	役割		講話	祭主		二月講話	賛者																		
												区分	坐り勤		前半	後半		指図方	上原	横山																
佐藤香苗	今川智子	虫明好美	中村道徳	森本忠平	谷内伸自	中村邦義	中村誠剛	中島誠治	門脇郁子	大教会奥様	上原繁道	上原明勇	大教会長様	吉岡壽	岡崎真一	中村義太郎	佐藤道孝	菅尾正治	上原明勇	今川昌彦	三島渉	大教会長様	上原繁道	上原繁次	横山逸郎											
横山小智榮	谷内美知子	内海安子	武内清明	横山逸郎	森本忠善	上原浩	高木昭祥	浅野明教	中村初美	門脇加津	上原順子	三島涉	杉原博之	門脇元教	田林久嗣	笹尾正治	佐藤道孝	菅尾正治	上原明勇	吉岡誠一郎	虫明立生	田中隆之	上原志郎	今川昌彦	上原正美	岡崎豊子	室悦子	佐藤真孝	赤木素志	山田敏教	渡邊隆夫	内海史郎	上原繁次	森本富美子	吉岡八恵	岡崎和美

十二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の親心溢れる御守護とお導きを頂いて 日々は結構に恙なくお連れ通り頂いております事は誠に有り難く勿体ない極みでございます 私共は御恩報じを念頭に朝夕御礼申し上げたすけ一条に邁進させて頂いておりますが気が付けば今年もあと僅かとなりました

改めて今年一年を振り返ってみますと 一月二十六日教祖百三十年祭を晴れやかに迎えさせて頂き 年祭に向けての三年千日と仕切つての成人の歩みを終えさせて頂きましたが 今年一年を年祭の年として教祖にお喜び頂きたいものと「つとめ」の充実と「さづけ」のお取り次ぎの徹底を図るべくにをいがけおたすけに努め励み初めておどば帰りする人を一人でも多く御守護頂けるよう 十一月二十三日の笠岡おどば帰り目指して成人の歩みを進めて参りました お陰で七百十一名の帰参者を得 中でも初帰参者六十一名を御守護頂けました事は誠に有り難く思わせて頂いております 又今年も年祭という節目であり多くの身上事情も見せて頂きましたしかしどんな中にも親心を感じさせて頂き 生き節とすべく心前向きにさせて頂いております

そんな中今日の吉日は十二月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 今年一年賜りました御守護の数々の御礼も込めまして 明るく陽気に勇んで 坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には寒さを厭わず遠近を問わず今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 相共にお歌を唱和し同じ思いに伏し拝み日頃のご高恩に改めて御礼申し上げます 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて年が明けると次の塚教祖百四十年祭に向かつての成人の歩みが本格化します 本部ではこれからの道を担う後継者育成に力を注いでいます 笠岡でもその機を生かすべく親の声を頼りに成人の歩を進めてまいります その為にも育ての基は育てるべき自分自身にある事を意識し 初代先代がそうであったようにこの道に絶対の自信を持ち 人類の目標である陽気ぐらし建設の用木との自覚を持って日々の生活をして行かなければなりません 改めて日頃の行いを見つめ 自己満足ではなく親神様教祖にお喜び頂きましたすけ一条にお働き頂けるよう努めさせて頂く所存でございます

何卒親神様には親孝心一筋の皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り 心楽しく穏やかな年末年始と理の栄を御守護下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

第912期修養科募集要項

*修養科期間

立教180年4月1日～6月27日

*教 養 掛

1ヶ月目	佐藤 真一	孝 弘	(大教会准役員・芳井分教会長)
2ヶ月目	高田 昌一	清彦	(眞府分教会長)
3ヶ月目	今川 清一	岡 誠一郎	(大教会役員・金浦分教会長)
	吉本 多正	西伯 悟	(三郡分教会長)
			(大教会役員・興明分教会長)
			(西伯分教会長)

*募集要項

- ・志願者は、4月末日現在で満17歳以上で、必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・3月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、6月29日午前10時に解散。

こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されていまし
たので転載いたします。(敬称略)

▼『天理時報』

▽1月1日付「新春歌壇」

・海松ヶ岡◎ 藤井光子さん

千両と若竹活けたる床の間に

おきなわうな
翁媪の掛け軸映ゆ

・福満◎ 福島悦子さん

初春の日差しいっぱい背負い込み

おちばのニュース読みてぬくもる

▼『陽気』誌1月号「道柳」より転載。

▽佳 詠

・東悠◎ 田林美智子さん

初釜や茶の香清しく教祖に

▼表紙写真
(上原喜三氏)

大教会だより

◎第九〇六期修養科一期講師

自 立教179年10月1日

至 立教179年12月27日

福 東 藤 井 保 人

◎立教180年春季大祭参拝

福 山	高 屋	神 邊	島 根	久 松	鶴 山	弥 高	陽 備	摩 耶	金 浦	興 明	ひろさと	陶 山	芳 井	吳 照	海松ヶ岡	東 悠	吸 江	照 陽	輝 美	新 山	皆 部	明 市	上 下	府 中	東 城	服 部	
上原繁道	大教会奥様	上原明勇	上原明勇	田中隆之	吉岡繁道	上原繁道	大教会長様	大教会奥様	中村剛	大教会長様	田中隆之	中村邦義	門脇元教	大教会奥様	佐藤道孝	佐藤道孝	門脇元教	上原明勇	中村邦義	上原明勇	佐藤道孝	吉岡繁道	門脇元教	上原明勇	府中上原	東城中原	服部上原

計 報

下田輝夫氏

神村分教会前会長
1月9日出直されました。
享年 88才



新年の1月5日、教会恒例のお節会におちばがえりする。南礼拝場でおつとめ、教祖殿、祖霊殿と参拝。ご報恩の思い一杯になる。そして今年のお心をめを申し上げた。昨年できなかった人

造りの数字を今年も定めた。やるしかないね。

門松の前で記念写真を撮る。元氣にお正月を迎えられた。有り難いなあ。到着時間が早かったのでお節会会場へ待たずに入れた。今回は第3食堂。最初の入場のようにまだ一杯になっていない。ひのきしんの係員の方達が総立ちで拍手をして迎え入れてくれる。口々に笑顔で「おかえりなさい!」「おめでとうございます!」と大歓迎してくれる。お節会でしか味わえない雰囲気だ。お餅をたくさんいただいて大満足だ。帰り道に6人の知人と会う。お互いに笑顔いっぱい新年の挨拶を交わす。今日の参拝は家族3人、他3人、7日にはをびや・おまもりを戴く方達が7人いて、総計13人のお節会帰参を下さる。8日には二人のをびや・おまもりの3人の帰参で有難い限りだ! 5, 7, 8日で計21人になる。しかし、をびや・おまもりを運ぶ方が初席を運ぶか? この間は深い遠い谷間の様な段差が有るのかなあ……真実を尽くすしかないよ。いや、今年は足を元を見つめ直す年、をびや・おまもりも確かな足場だよと自分を励ましている。今年も希望一杯に通らせてもらいます。

(ひ)